

ふるさとを愛し、ふるさとを創る東浦っ子

敦賀市立東浦小・中学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	5回
中学校区を単位とした協議会	7回
地域及び家庭への学校公開	9回(のべ) 9日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	21人
授業ボランティア(含:低ボラ)	8人
登下校支援ボランティア	18,000人
その他(図書、草刈りボランティア)	137人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

「昔遊びと塩づくり」

児童・生徒が体験をとおして東浦地区の歴史、文化や自然に興味を持ち、ふるさとを愛する心を育むことを目的として、例年「地域との交流活動」を行っている。この活動はまた、地域・学校協議会委員が主体となって計画立案を行い、学校とともに行事を行うことで、地域と学校との連携や協力を深めることも目指している。今年度は、小学校1～3年生は「昔遊び体験」、4～6年生と中学生は「塩づくり体験」、小中合わせて「塩むすび作りと試食」をおこなった。

(1) 「昔遊び体験」



児童の祖父母や地域のお年寄り多数の参加を得て、おはじきやお手玉、紙鉄砲など、作り方や遊び方を教えて頂き、和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができた。中には自分の子どもころのことを懐かしげに児童に話して聞かせる方もあり、大変よい交流の場を持つことができた。子どもたちにとっても、日頃はゲームで一人で遊ぶことが多く、友達やお年寄りと関わりながら遊ぶ体験はとても楽しかったようである。

(2) 「塩づくり体験」

東浦地区では、はるか以前に塩づくりが産業として行われていたようであるが、それは途絶えて久しい。しかし戦後の一時期、自家用、あるいは物々交換用として、囲炉裏端で海水を煮詰め、製塩を行っていた。当時を知る方をゲストティーチャーとしてお迎えし、そのころの暮らしを話して頂くとともに、地域・学校協議会委員や地域の方も一緒に当時のままの製法で塩づくり体験を行った。



(3) 「塩むすび作りと試食」

できあがった塩を使って、児童・生徒、保護者、地域の方、地域・学校協議会委員等で塩むすびを作って試食した。海水から作った塩は味が大変まろやかで複雑な旨味があった。「自分の分は自分で」を原則に、めいめい思い思いの塩むすびを作り、給食の調理員が作った豚汁とともにいただいた。ともに作り、ともに食することで、老若男女、和気あいあいのひとときを楽しんだ。



成果と課題

毎年の恒例行事として「地域との交流活動」を開催しているが、地域と学校をつなぐなくてはならない大切な行事となってきている。一方、例年のことで地域の人材発掘が難しくなっているため、今後は各地区区長や地域の方の協力を得て、人材バンク的なものを作ることが必要となろう。また、活動もローテーションを組んで数年サイクルで実施するなど、工夫していく必要がある。